

博物館における特色を活かした事業

— 埼玉古墳群での来館者向け事業を中心に —

金田 彩香

1 はじめに

平成30年は、埼玉古墳群史跡指定80周年・稲荷山古墳発掘調査50周年・鉄剣銘文発見40周年であり、埼玉県立さきたま史跡の博物館(以下"当館")において、節目の年である。

また、当館は野外博物館としても知られている。

しかしながら、「博物館学の中でも野外博物館に関する論者は少ない」(落合2009)という指摘があるなど、野外博物館について述べた論考はあまり多くない。

そこで、本稿では、これまで当館において埼玉古墳群を舞台に実施されてきた館外事業の展開及び現状を述べることで野外博物館における館外事業の一端を示していきたい。

2 野外博物館及び当館の位置づけについて

まず、当館の事業について述べる前に、野外博物館の定義について確認しておきたい。

野外博物館について、新井重三氏は「野外博物館の主体は自然環境の中にはぐくみ育てられた生成物及び人類の生活址である。」(新井1956)と述べている。

また、木場一夫氏は「野外博物館の要件」として、「野外展示空間を有すると同時に核となる室内展示を行う博物館が同時に併存する」(木場1949)点を挙げている。

当館について、この定義と照らし合わせてみると、当館は「博物館」(当館)と埼玉古墳群という「人類の生活址」及び「野外展示空間」が「同時に併存」しており、野外博物館の一種であるといえる。

また、野外博物館における当館の位置づけについて、野外博物館の分類(落合2009)によると、野外博物館は、①現地保存型、②移設・収集型、③復元・建設型に分類され、①・②についてはそれぞれ人文系・自然系に分類される。当館は、このうち①の人文系の風土記の丘に属するとしている。

①の人文系には、他に遺跡・史跡整備、(重)伝統的建造物群、文化的景観、近代遺産(産業遺産)、戦跡遺産、道の駅が含まれる。

3 当館で現在までに実施した館外事業

次に、現在実施している館外事業について紹介する前に、当館及び当館の前身のさきたま資料館において、現在までにどのような館外事業が行われてきたのかについてみていきたい。

なお、ここでは、平成27年度までに当館及びさきたま資料館において実施された館外事業についてみていくこととする。

実施年度	事業名	内容等
昭和60～平成7・平成14・平成15・平成18年	埼玉古墳群見学会	県民の日記念事業の一環。
昭和63～平成1年	説明版・モニュメント設置事業	埼玉古墳群内の古墳に説明板・モニュメントを設置。
平成3～平成4年	さきたま風土記の丘教室一夏休み親子で古墳発掘作業	小・中学生とその親が対象。発掘実習及び古墳に関する講義を実施。
平成4～平成12年	実感！古墳探検 (平成7年度より、「実感！古墳探検ワークシート」に名称変更。)	難易度別(初・中・上級)ワークシートを配布(小・中学生・高校生対象)。参加者には鉄剣鉛筆贈呈。
平成7～平成10年	さきたま物語	瓦塚古墳等にて古墳の歴史に関する寸劇を行う。
平成7～平成14年	実感！古墳探検 オリエンテーリング (平成13年度より、「古墳探検オリエンテーリング」に名称変更。)	埼玉古墳公園内に隠された問題を解き、キーワードを当てて。成績優秀者には「古墳博士」の賞状と鉄剣鉛筆を授与。
平成9年	行田の古墳めぐり	さきたまアカデミアの一環。将軍山古墳(同展示館を含む)等を見学。
平成9・平成10年	古墳ウルトラクイズ	埼玉古墳群を舞台にクイズを実施。
平成10年	古墳群探検ツアー	
平成11年	実感！古墳群探検ツアー	
平成12年	実感！古墳群クイズ探検ツアー	
平成12年	稲荷山古墳見学会	県民の日記念事業の一環。
平成13年	古墳クイズツアー	クイズと古墳探検の組み合わせであるとみられる。
平成13・平成14年	さきたま古墳クイズ	
平成15・16年	さきたま探検クイズ	わくわくサタデーミュージアムの一環。
平成16・平成17年	将軍山・稲荷山古墳見学会	県民の日記念事業の一環。
平成17年	風土記の丘クイズ	
平成17年	写真技術講習会	さきたま講座の一環。

実施年度	事業名	内容等
平成17年～現在	子供講座 (年度により名称変更有)	年度により内容が異なるが、古墳群見学・古墳の測量等を実施。
平成18年	古墳群ガイドツアー	現在の古墳群ガイドツアーとほぼ同様のコースにて実施。
平成19～平成21年	奥の山古墳発掘調査 現地説明会	
平成19・平成20年	鉄剣ガイドツアー	展示解説と古墳群見学を行う。県民の日記念事業としても実施。
平成19・20年	古代の武人に変身しよう	わくわくサタデー ミュージアムの一環。 屋内で実施された可能性有。
平成21～平成24年	さきたまガイドツアー	展示解説または古墳群見学を実施。
平成21年～現在	古代人に変身	内容後述。
平成21年～現在	遺跡発掘調査報告会	
平成22年～現在	史跡探訪	行田市市内等、県内に残されている史跡を探訪する。
平成22～平成27年	鉄砲山古墳発掘調査 現地説明会	
平成25年	さきたま古墳群 ガイドツアー	現在の古墳群ガイドツアーとほぼ同様の内容で実施。
平成25年～現在	埼玉古墳群ガイドツアー 万葉歌碑を巡る	古典の日記念事業の一環。 埼玉古墳群の他、万葉歌碑が設置されている前玉神社等を見学する。

<表1> 平成27年度までに埼玉古墳群において実施された館外事業⁽¹⁾

平成27年度までに実施された事業についてみると、以下のような特徴があると思われる。

- ①対象別に事業を行っている。
- ②参加者にとって能動的に参加する事業が多い。

当館事業の参加者には老若男女問わず様々な方々が存在し、事業に対する需要も参加者により異なる。従って、同様の事業でも一般及び児童等、需要が異なる参加者をそれぞれ対象とした事業を行うことは、事業参加者の多様な需要を満たす上で有益である。

また、「一般に博物館展示は受動態展示であり、見学者は受け身の側であるために疲労(中略)が

残ることが多い」(落合2009)という指摘がある。

一方、当館では、"ワークシート"及び"オリエンテーリング"等参加者が能動的に参加できる館外事業を数多く実施している。

従って、当館において、野外博物館ならではの館外事業は、来館者及び来園者に能動的に事業に参加してもらう事業作りという点で意義があると考ええる。

4 現在実施している事業の概要⁽²⁾

では、平成27年度以降に実施した各事業の概要についても紹介していきたい。

なお、本稿では平成27年度以降に実施した事業のうち、現在行われている事業について、紹介する。

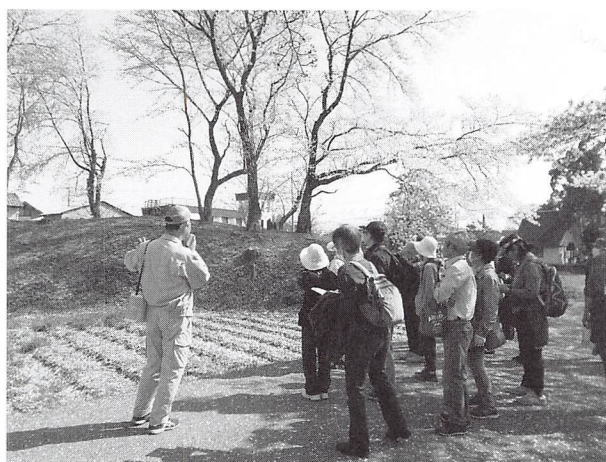
・「古墳群ガイドツアー」

古墳公園来園者・博物館入館者対象として実施。

当館学芸員が埼玉古墳群について解説をしながら古墳群を散策するツアーを行なう。

散策・解説を行う主な古墳は、埼玉古墳群のうち、瓦塚古墳・愛宕山古墳・二子山古墳・丸墓山古墳・稲荷山古墳・(將軍山古墳)。コースは、以前さきたま資料館において実施していた埼玉古墳群見学会等と同様であるとみられる。

なお、雨天時は当館内において金錯銘鉄剣を中心とした展示品の解説を学芸員が行う鉄剣ガイドツアーを実施している。



・「古墳キッズガイドツアー」

平成29年度より、小学3年生から中学3年生(小学生は保護者同伴)を対象に実施。

コースについては古墳群ガイドツアーと概ね同様だが、対象が異なるため、当館職員が前者より平易な内容で埼玉古墳群について解説を行っている。

また、参加者には、埼玉古墳群のイラストが描かれた白地図を配布しており、参加者が自発的に学習を行えるようにしている。

なお、雨天時は当館内において、埼玉古墳群の概要説明および国宝展示室の展示解説を実施している。



・「古代人に変身」

主に小・中学生とその保護者を対象に実施。

参加者に古墳時代の男性用衣装、高松塚古墳壁画に描かれた女性像風衣装を再現した衣装の装着体験をしていただく。

なお、埼玉古墳群のうち、瓦塚古墳付近(雨天時はレストハウス)にて、衣装着用の上、写真撮影が可能である。

古代人の身なり(再現)の装着体験により、参加者に古代人の気分を体験していただくと共に、参加者の古代への興味・関心を引き出す効果があるとみられる。

なお、平成30年度に、外国人向けの古代衣装等作成を行なった。

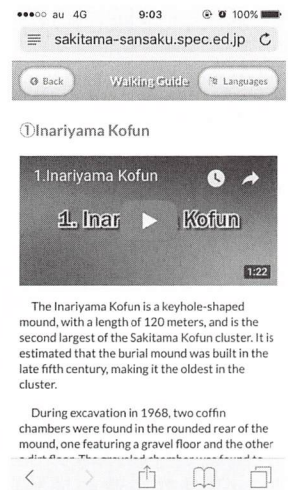
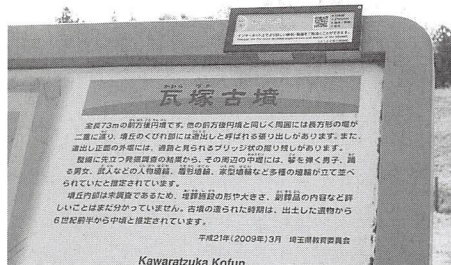


・「埼玉古墳群散策ガイド」(スマートフォンサイト)の開設。

平成30年度より実施。複数の言語に対応したスマートフォンサイトの開設を行った。

見学者がさきたま古墳公園内にある古墳の解説板に付設されたQRコードを読み取ることで、日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語に対応した「埼玉古墳群の散策ガイド」に移動する。

見学者は、古墳群のマップと各古墳の解説を見ながら公園内を散策することができる。



・さきたまクイズラリー

平成30年度より実施。

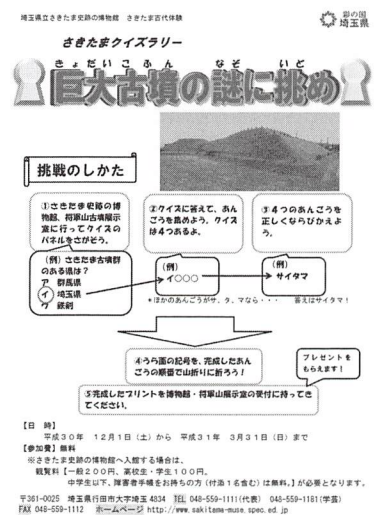
館内及び将軍山古墳展示館内にワークシートを配架する。

参加者には、館内及び将軍山古墳展示館内に掲示してあるクイズに答え、ワークシートにあるキーワードを埋めていただく。

キーワードをもとにワークシートを折り、受付に提出していただいた参加者(回答者)には、当館及び将軍山展示館内の受付にて「古墳カード」を贈呈する。

参加者がクイズに解答しながら、館内及び将軍山古墳展示館内を見学することにより、参加者の展示内容に対する興味・関心を高めると共に、展示内容への更なる理解を深めることにつながるものとみられる。

なお、問題については、期間を決めて変更する予定である。



現在行われている事業についてしてみると、平成27年度以前の館外事業と比較して、より多様な需要に対応した事業を実施しているのではないかと考える。

これについては、まず、外国人を対象にした事業の実施が挙げられる。当館では、2020年のオリンピック・パラリンピック開催を受けて、今後訪日外国人が増加することを鑑み、「古代人に変身」、「埼玉古墳群散策ガイド」等、外国人向けの館外事業もしくは事業の改良を実施した。

また、「古墳キッズガイドツアー」の実施により、「古墳群ガイドツアー」における児童参加者の需要、「さきたまクイズラリー」の実施により、参加者にとって能動的な事業の増加及び期間ごとの問題変更により、参加者の更なる需要を満たすことができると思われる。

5 おわりに

本稿において、当館における埼玉古墳群を舞台にした館外事業について大まかに述べてきた。これにより、野外博物館の事業の一端を多少なりとも示すことができたのではないかと考える。

しかしながら、本稿においては、当館の大まかな館外事業の紹介にとどまり、当館及び野外博物館における館外事業の考察には至らなかった。この点については、今後の課題としたい。

また、当館における埼玉古墳群を舞台にした事業は、野外博物館であるという当館の特性を活かした事業であると思うが、このように、博物館ごとの特性を活かした事業を行なうことは、来館者等にとって魅力的な博物館作りの一助となり、博物館の発展に繋がっていくものと考えらる。

《注》

- (1) <表1> は、埼玉県立さきたま資料館の「館報」NO.1～36及び「広報紙 さきたま」Vol.1～17、当館の「館報」NO.1～13を参照の上、作成した。
- (2) なお、「夏休み直前！子供講座」(平成30年度実施)も館外事業の一つであるが、概要等については、石田智美・頓所詩織 2017「博物館における学芸員育成の実践—博物館実習と子供講座からの考察—」(「埼玉県立史跡の博物館 紀要 第10号」)に詳述されているので、本稿においては割愛する。

《参考・引用文献》

- 新井重三 1956 「野外博物館」『博物館学入門』理想社
落合知子 2009 『野外博物館の研究』雄山閣
木場一夫 1949 『新しい博物館』日本教育出版社
杉本尚次 2000 『世界の野外博物館 環境との共生をめざして』学芸出版社
埼玉県立さきたま資料館 1970～2005 「館報」NO.1～36
埼玉県立さきたま史跡の博物館 2006～2018 「館報」NO.1～13
埼玉県立さきたま資料館 1989～2006 「広報紙 さきたま」Vol.1～17
埼玉県立史跡の博物館 2007～2018 「埼玉県立史跡の博物館紀要」第1～11号